

令和4年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク講演会

《 参加首長等による発言・まとめ 》



■ 聖籠町副町長 高松 光志

新潟県の聖籠町の副町長 高松と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日、小早川本部長様、それから加藤支店長様から貴重なお話しいただきまして誠にありがとうございました。聖籠町の紹介を兼ねながら少しとりとめのない話しになるかもしれませんが、お話ししたいと思います。

聖籠町はまずですね新潟県の政令指定都市、新潟市の北東に隣接をしまして、新潟港の西港区と東港区があるんですが聖籠町は東港区というのが港がございます。簡単にいうと西港区は人を運ぶところ、東港区は物を運ぶところといった役割分担があるんです。

パンフレットも置いてありますけれどもわたたくしどもの町はですね、果樹が盛んでございまして当然、稲作のほかに、稲作も含めてですけれどもサクランボ、ぶどう、かんぴょう、それから梨、桃等ですねそういった果樹が盛んなところではあるんですけれども、一方で新潟県東港区の新潟東港工業地帯というのがございまして聖籠町の面積約38平方キロあるんですが、その4分の1の面積が工業地帯ということで約200社近くが操業しているところがございます。火力発電所もございましていま最近では、工業地帯の中にバイオマス発電の計画もございまして、いま環境設備等進めておりますが30万キロワットのバイオマス発電の計画がありまして、いま現在そこはですね暫定事業で27ホールのゴルフ場があるんですけれども、その3分の1を使ったバイオマスも計画が予定をされているというところでありまして。

ちなみにですね、いま新潟のサッカー、アルビレックス新潟というチームがJ2で活躍をしているんですが、今週の土曜日優勝しますとJ1に昇格をするということで、非常に盛り上がっているところです。

クルーズ船のお話しで申し上げますと、先ほど申し上げた新潟東港区はですね唯一16万トン級のクルーズ船が着岸できるということで、コロナの関係ですっと中止ということで続いているんですが、2019年の11月に「ダイヤモンドプリンセス」を最後にクルーズ船の入港がないという状況であります。わたしもクルーズ船に乗ったことはないんですが、非常に賑わって壮大な風景がありまして、まさにこんな船があるんだというところで、非常に町民のですね見学された方には衝撃的な光景だったと思います。それが先ほど講演の中にもありましたけれど本当に町民の身近なクルーズ船ということになっていくことが有難いのかなあというふうに思っています。

わたくしどもの町ですとクルーズ船の課題といいますと、新潟県とそれから隣の新潟市、聖籠町とでポートセールス等でですね、クルーズ船を色々誘致しているんですけども、聖籠町自体は先ほど申し上げたとおり果樹が盛んで、観光果樹園等がありますが、一時的な観光の受け入れということは可能なんですけど、通年で1年間大勢の観光客を受け入れるということがなかなかないという課題がございまして、そこをどうやってせつかくクルーズ船の効果を受け入れていくか、というところが本当にわたくしどもの町の課題になっております。その点、今後ちょうど考えていかないとならないわけですが、いずれにしろクルーズ船は地域の底辺の活性化に繋がるということで、我々も取り組んでいきたいと考えております。

それから洋上風力発電の関係ではですね、聖籠町でも非常に平らな土地でございまして、ひとつ陸上のそういった風力発電の計画も進んでおります。非常に小規模でありますけれどもそういった関係があります。

それから洋上風力でもっと北側にですね、胎内市、村上市があるんですが、その洋上風力の発電関係が進んでおまして船舶が行きかう、いわゆる促進区域に指定されているところでもあります。

町の方もですね色々クルーズ船、あるいは洋上風力とこれからまだまだ課題はあるんですけども、新潟県もしくは新潟市、そういったところと一生懸命取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。ありがとうございました。